## 理科 中2生物分野(消化・吸収・呼吸・血液の成分)

(1)	炭水化物などの栄養分を分解すること。 吸収されやすい物質に変えること。	(1)
(2)	胃や小腸など、消化にかかわる器官。	(2)
(3)	食物の通り道となる1本の長い管。 →【 口→食道→胃→小腸→大腸→肛門 】	(3)
(4)	消化器官から出される液体。 → 胃液、すい液、だ液、胆汁など。	(4)
(5)	養分を分解する働きをもつ物質。 → 消化液に含まれる。	(5)
(6)	<ol> <li>1 だ液せんでつくられる消化液。</li> <li>2 肝臓でつくられる消化液。</li> </ol>	(6) ①
	<ul><li>③ 胃でつくられる消化液。</li><li>④ すい臓でつくられる消化液。</li></ul>	2
		3
,		4
(7)	胆汁を蓄える器官。	(7)
(8)	<ul><li>① だ液に含まれ、デンプンを分解する消化酵素。</li><li>② 胃液に含まれ、タンパク質を分解する消化酵素。</li></ul>	(8) ①
		2
(9)	<ul><li>① すい液に含まれ、デンプンを分解する消化酵素。</li><li>② すい液に含まれ、タンパク質を分解する消化酵素。</li></ul>	(9) ①
	③ すい液に含まれ、脂肪を分解する消化酵素。	2
		3
(10)	デンプンが分解されてできる物質。 → だ液・すい液・小腸の壁の消化酵素のはたらき。	(10)
(11)	タンパク質が分解されてできる物質。 → 胃液・すい液・小腸の壁の消化酵素のはたらき。	(11)
(12)	脂肪が分解されてできる物質。→ すい液に含まれる消化酵素のはたらき。胆汁は消化酵素を含まないが、分解を助ける。	(12)

(13) 小腸の内壁のひだの表面にある無数の突起。→ 消化された養分や水分を吸収。小腸の表面積が大きくなり、効率よく吸収できる。	(13)
(14) 柔毛で吸収され、毛細血管に入る物質。 → その後、門脈を通って肝臓に運ばれる。	(14)
(15) 脂肪酸とモノグリセリドが柔毛で吸収され、再び脂肪になって入る管。 → やがて血管と合流し、全身に運ばれる。	(15)
(16) ブドウ糖の一部が変えられてできる物質。 → 肝臓で一時的に蓄えられる。	(16)
(17) デンプンに反応し青紫色になる指示薬。	(17)
<ul><li>(18) 糖に反応し、赤褐色の沈殿ができる指示薬。</li><li>→ 加熱が必要。</li></ul>	(18)
<ul><li>(19) 口や鼻から入った空気が通る管。</li><li>→ 肺につながる。</li></ul>	(19)
(20) 気管支の先にあるうすい膜の袋。→ まわりを毛細血管が取り囲む。表面 積を大きくし、酸素と二酸化炭素の交換を効率よく行うのに役立つ。	(20)
(21) 呼吸運動で使う、肺の下にある筋肉。→ 息を吸うときは下がり、息をはくときは上がる。(肋骨は、息を吸うときは上がり、はくときは下がる)	(21)
<ul><li>(22) 細胞の呼吸で、酸素を使い養分を分解してできる物質。</li><li>→ 養分が分解され、エネルギーが取り出される。</li></ul>	(22)
(23) 血液の成分。 酸素を運ぶはたらきがある。	(23)
(24) 赤血球に含まれる赤色の物質。→ 酸素の多いところでは酸素と結びつき、酸素の少ないところでは酸素をはなす性質。	(24)
(25) 血液の液体成分。 養分や不要物をとかして運ぶはたらき。	(25)
(26) 血しょうが毛細血管からしみ出て細胞をひたしたもの。 → 一部はリンパ管に入ってリンパ液となる。	(26)
(27) 血液の成分。 出血したときに血を固めるはたらき。	(27)
(28) 血液の成分。 体の中に入った細菌などを分解するはたらき。	(28)